

2001年（平成13年）

- ・ 札幌創立 40 周年記念事業の概要まとまる
- ・ オーロラタウン・コンサートのボランティア始まる
- ・ 「FAN CLUBの和」掲載が始まる
- ・ 円光寺さんのお別れ会を開催
- ・ 第3回札幌くらぶコンサート開催
- ・ 英国公演のツアー中止になる
- ・ 英国公演大成功。女性2人が追っかけを決行

札幌40周年記念事業

この年は札幌創立40周年に当り、その記念事業の概要が発表されました。柱は4つで、「英国公演」「世界レーベルでのCD発売」「英国公演関連コンサート開催」「札幌40年誌発行」です。

メインは何といっても初の英国公演。英国内7都市で7公演、約2週間にわたる英国ツアーになります。

札幌くらぶが関係した主な点としては、10月12日の英国公演記念演奏会のリハーサルがキタラで11日に行われ、これに招待されて、100名を超える会員が見学しました。

また、翌12日の記念演奏会後の記念パーティー・結団式にもスタッフが招待され、出席しました。

オーロラタウン・コンサートを支援

40周年を節目とし、札幌としても次々に新機軸を打ち出していましたが、その一つとしてもっと直接市民と触れ合う機会を、という趣旨でこの年の3月から月に一度札幌地下街のオーロラタウンでのミニコンサートが始まりました。

札幌事務局からの要請もあり、札幌くらぶとしてもその趣旨に賛同し、積極的に支援することになりました。具体的には、毎回、都合のつくスタッフが会場に行き、プログラムやチラシの配布、その準備や後片付け、聴衆

の誘導や案内などを行います。現在では立ち消え状態になっていますが、実施されていた数年間、札幌くらぶは毎回支援活動を継続しました。

FAN CLUBの和

私たち札幌くらぶだけではなく、全国には約30のプロのオーケストラがあるのだから、それぞれに私たちのようなファンクラブがあるのではないかと考え、それぞれの活動を紹介したり、できれば交流を図れないものか、という思いから、1月発行の「札幌くらぶ」第15号から「FAN CLUBの和」という連載を始めました。

後に、全国プロオーケストラファンクラブ協議会（JOF C）発足のきっかけになった企画でした。調べてみると、ファンクラブは予想以上に少なく、この年に紹介できたのは「群響を応援する県民の会」「仙台フィルハーモニークラブ」「山響ファンクラブ」の3団体のみでした。札幌くらぶを合わせたこの4団体が、今もJOF Cの中核となっています。

円光寺さんお別れ会

1998（平成10）年に札幌正指揮者に就任され、札幌のもう一人の顔として尾高さんと両輪となって札幌をひっぱてこられた円光寺雅彦氏が、4月末日をもって退団されました。

正指揮者として最後のステージとなった4月20日の定期演奏会終了後、レストラン・キ

タラで楽員さんとのお別れ会が開催され、札幌くらぶスタッフも参加しました。



円光寺さんお別れ会

参加者からは「残念」という声も聞かれましたが、当分フリーで勉強したいというご本人の希望なので、あたたかくお送りしようという雰囲気になっていました。

第3回札幌くらぶコンサート開催

5月26日キタラ大ホールで、指揮に青島広志さんをお迎えし、第3回札幌くらぶコンサートが開催されました。

青島さん特有のキャラクターで、会場を沸かせる場面もありましたが、クラシックファンにとって十分に満足いくコンサートとなりました。お楽しみの指揮者コーナーの曲は「天国と地獄」序曲、そして締めめのメインはドヴォルザーク交響曲第9番「新世界より」という内容でした。

終了後の交流会はレストラン・キタラで行われ、いつものように和やかな雰囲気に終始していました。

英国公演ツアー中止

10月末から11月にかけて実施される札幌初の英国公演。尾高さんの呼びかけもあり、旅行社がツアーを企画し、札幌くらぶ会員をはじめ多くの申込みがあり、8月には募集定員に達し、それ以後の申込みは断っているという状態でした。記念すべき公演に同行できる、ということで多くの方が楽しみにしていました。

ところが、思わぬ事態が突発します。9月11日の米国同時多発テロです。世界中が騒然となり、米国にとどまらず欧州や世界中に飛び火するのではという不安が高まり、同行ツ

アーどころか札幌の公演そのものが可能かどうか、という事態になってしまいました。海外旅行は当分控えざるを得ないという事態となり、主催旅行社はいち早くツアーの中止を決定。楽しみにしていた多くのファンをがっかりさせました。

英国公演に追っかけ

実施が危ぶまれていた英国公演は、様々な情報が錯綜するなか、決行することに決まって、楽員は10月20・21日に英国に向けて出発しました。何となく、戦地にでも乗り込むかのような悲壮感をともなった出発でした。

様々な心配にかかわらず、スウォンジー、クロイドン、ベルファスト、バーミンガム、ロンドン、カーディフ、エディンバラの7都市で行われた公演は大成功で、北海道新聞に転載された現地の新聞、特に辛い批評で知られるロンドンの新聞も随分好意的な批評でした。

驚いたことに、同行ツアーが中止になったのにもかかわらず、この公演に札幌くらぶ会員の鈴木美保、長屋純子の二人が追っかけを敢行しました。バーミンガムとロンドンの公演を聴いたそうで、帰国後、「札幌くらぶ」に「英国公演報告記」を執筆してくれました。それによると、国内では様々な心配が語られましたが、実際にはごく平穏で、記念すべき公演に同行でき、生涯で忘れることのできない体験となったようです。

◎この年「札幌くらぶ」に登場した人
B・ギュラー（ケープタウン・フィル首席）
大山平一郎（九響常任）
吉野直子（ハーピスト）
竹澤恭子（ヴァイオリニスト）
馬場順子(Va)、荒木 均(Vc)
廣狩 亮(Va)、三原豊彦(Vn)
三原愛彦(Va)、金子義人(Tp)
吉岡幹雄(Perc)